

変形性膝関節症について

「変形性膝関節症」とは、膝の関節に発生し、痛み、腫れ、運動障害を起こす進行性の慢性関節疾患で中高年の女性に多くみられます。軟骨や骨がすり減ったり、骨のとげ(骨棘)ができたりします。膝関節に無理がかかり腫れて、立ったり座ったり、階段の登り降り、膝を伸ばしたりするときに痛みが現れるのが特徴です。進行すると常に痛み、膝の曲げ伸ばしが制限され、膝が腫れて水がたまることがあります。

治療の目的は、痛みの除去と関節運動制限の改善であり、まず保存的に鎮痛剤、消炎剤の投与、大腿四頭筋(太ももの筋肉)の強化、生活環境の改善を試みます。変形の強い場合には手術が行われることもあります。変形性膝関節症は、関節の老化とともに起こるの

で、完全に良くなるとは言えませんが、膝に無理をかけず痛みを緩和し、脚の筋肉を鍛える運動療法と減量をするこ

とで日常生活は支障なくできるようになるでしょう。診療を行っております。詳しくは受付までお問い合わせ下さい。



『地域の皆様へ』

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、次のような取り組みを行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

【診療所】

○診察を受ける方および付き添いの方全員のマスク着用、手の消毒、検温をお願いしております。

○診療所内の消毒と換気を毎日実施しております。

【老健施設】
○原則として、入所者への面会・外泊を禁止しております。

○通所リハビリ利用者に毎日の体調確認と検温を実施しております。

○施設内および送迎車両の消毒と換気を毎日実施しております。

※泉崎公開講座は当面の間、開催を見合わせます。